共によりよく生きようとする豊かな心をはぐくむ道徳教育

～児童の心に刻んでいく道徳の時間の積み重ね～

和光市立第四小学校　　船越　一英

Ⅰ　はじめに　－問題の所在と研究の目的－

近年の社会の急激な変化は，様々な実体験をする機会や場の減少など，子ども達にも多大な影響を及ぼしている。子ども達は日常生活において様々なストレスを受け，活動の中でも，成就感や満足感よりも失望感や挫折感を味わうことの方が多い。また，その影響で子ども達の友達関係も大きく変わり，他者と一定の距離を置いて干渉しすぎない子どもがいる一方，ある特定の友達に過度に依存し，流されるままに行動する子どもも増えている。

こうした問題をどう克服するかは道徳教育の重要な課題の一つであり，特に要となる道徳の時間が果たす役割は重要である。そこで，道徳の時間の指導について，積み重ねを意識して同じ内容項目を繰り返し指導していく必要があると考えた。

本研究ではまず，道徳の時間にどのような積み重ねをしていくべきかを考えていく上での土台にするため，日本人がもつ伝統的な道徳観について，特に他者とのかかわりについての視点から整理をし，日本人の道徳観のよさの源流を探る。次に，この日本人がもつ道徳観について，学校ではどのように教育してきたのか，近代から現代までの日本の小学校における道徳教育の変遷を整理し，道徳教育の重要性を明らかにする。そして，今日求められている道徳教育について考えるため，平成２０年に改訂された指導要領について，その基本的な考え方や改訂のポイントについて分析を行う。その上で，児童の共によりよく生きようとする心をはぐくむために，道徳の時間にどのような指導を行っていけばよいかを考え，具体的な提案を作成する。さらに，提案について部分的な実践も行い，その効果を実証していく。

このような研究を通して，道徳の時間１時間１時間が児童の心に刻まれていき，それが力の源となって，周りと共によりよく生きていこうとする力をもった児童を育成する方策を見出していきたい。

Ⅱ　章の構成

第１章　日本人の道徳観
　第１節　日本的な道徳観の形成
　第２節　日本人のもつ道徳観
第２章　道徳観を支える道徳教育の変遷
　第１節　戦前の道徳教育
　第２節　戦後の道徳教育
第３章　今日の道徳教育
　第１節　平成 20 年改訂の学習指導要領
　第２節　埼玉県での取組
　第３節　道徳教育に求められているもの
第４章　積み重ねを意識した道徳の時間
　第１節　６年間を見通したねらいの設定
　第２節　内容項目別の指導計画
　第３節　１時間ごとの指導例
　第４節　具体的な実践と効果の検証
第５章　成果と課題
　第１節　研究の成果
　第２節　今後の課題

Ⅲ　研究の内容

第４章　積み重ねを意識した，道徳の時間の指導の工夫

第１節　６年間を見通したねらいの設定

６年間を見通した指導計画を作成するにあたって，まずは指導する内容項目が，低学年から中学年，高学年と学年段階が上がるに従ってどのような児童を育てようとしているのかを分析する必要がある。そして，それに基づいてねらいを設定し，適した資料を選定していかなければならない。しかし，ねらいについては，６年間の積み重ねを念頭に置き，異学年で資料だけを変えて同じようなねらいで道徳の時間が行われるようなことは避けなければならない。また，一言で適した資料の選定と言っても読み物資料は多種多様にあり，教育関連会社の副読本だけでも現在 10 種類も刊行されている。そこに埼玉県独自の資料である「彩の国の道徳」や「心の絆」，文科省発行の読み物資料なども加えると，膨大な量となる。

そこで，６年間を見通してねらいを設定し，それに合わせてなるべく内容が重ならないような資料を選定した。そして，内容項目別のねらいと使用する資料の一覧を作成した。

第２節　内容項目別の指導計画

次に，同じ内容項目を繰り返し指導していく際，どのように積み重ねを意識して指導していくのかが一目でわかるよう，内容項目別の指導計画を作成した。

冒頭には，その内容項目について学年が上がるに従ってどのような児童を育てようとしているのかをまとめ，各学年で取り上げるそれぞれの価値が，６年間全体の中ではどのように位置づけられているのか，分かりやすいようにした。

また，１時間ごとの指導において，どのような意識をもって積み重ねていくのかを把握できるよう，「積み重ねの工夫」という欄を設けて明記した。この欄には，積み重ねの工夫がその１時間のねらいとどのようにつながってくるのかにも触れ，積み重ねが中・長期的な視点でのみ必要なものではなく，１時間ごとのねらいに迫るためにも有効な手立てになっていることがわかるようにした。

第３節　１時間ごとの指導例

最後に，１時間ごとの指導において具体的にどのように積み重ねていくのかを明確にするため，それぞれの時間の指導例を作成した。

先に述べたように，積み重ねは１時間ごとのねらいに迫るためにも有効な手立てになると考え，工夫を提案している。それは，それぞれの学習指導過程において，特別なことを行うわけではない。そのことが具体的にイメージできるように指導例で示し，積み重ねという視点で行う授業を実施しやすくするようにした。

また，導入や展開の自己をふり返る場面で，より効果的に積み重ねを意識して授業を行えるような提案も，いくつか示した。たとえば，中学年の２－（３）の指導において，導入で「次のような二人は友達と言えるか」というクイズ形式の発問を用い，これまでの自己の友情観から課題意識をもたせる例などである。

第４節　具体的な実践と効果の検証

本研究において，実際に効果を検証するためには６年間を要する。しかし，部分的な検証は短期間でも行えると判断し，１年生と３年生の２学年においてそれぞれ効果を検証し，道徳の時間に積み重ねを意識する有効性を実証していくことにした。

（１）１年生における実践と効果の検証

１年生においては，未学習であった内容項目２－（２）について，作成した指導計画に沿って２時間の授業を行い，事前と事後の意識を調査した。

○「ぼくのはな　さいたけど」のおべんきょうをしているとき，「はしの上のおおかみ」のおはなしや，そのときじぶんがかんがえたことをおもい出しましたか。＜事後＞

	男　子	女　子	計
思い出した	９２．３％	１００％	９５．５％

○人に「しんせつ」にするのは，どうしてだとおもいますか。

＜事前＞

・しなければいけないから。　・（自分の）周りの人がよろこぶから。
・お母さん（おうちの人）にそう言われているから。
・（親切にすると）りっぱな人になれるから。　・相手がよろこぶから。
・周りの人が自分にいつも親切にしてくれるから。
・自分がやさしいきもちになれるから。　・自分がやさしくなるために。

＜事後＞

・自分も困っている時などに親切にしてもらうため。
・相手を喜ばせるため。　・困っている人がかわいそうだから。
・自分がすっきりするから。　・自分もいい気持ちになるから。
・自分も相手もうれしい気持ちになるから。

この結果から，授業者が積み重ねを意識して授業をすると，９割以上の児童が授業中に既習事項を想起し，親切に関する価値理解も深まっている様子が見られた。

（２）３年生における実践と効果の検証

３年生においては，前年度（２年生時）に積み重ねを意識して授業を行った内容項目２－（３）について授業を行い，授業者が積み重ねを意識して道徳の時間を行ってきた学級出身の児童と，意識せずに道徳の時間を行ってきた学級出身の児童の意識を調査した。

○　今日の道徳の時間に，これまでの道徳の時間で友だちについて考えたことや，その時に読んだお話のことを思い出しましたか。

（上段，２年生時に積み重ねを意識してきた学級出身の児童）

	男　子	女子	計
思い出した	６０．０％	１００％	８０．０％
	３６．４％	３０．０％	３３．３％

○　「友だち」とは，どういう人のことをいうと思いますか。

（左，２年生時に積み重ねを意識してきた学級出身の児童）

・自分にとって大切な人
・困った時に助けてくれる人
・助け合える人
・ケンカができる人
・気持ちを考えてあげられる人
・お互いの気持ちがわかる人

・一緒に遊ぶ人
・一緒に色々なことを楽しめる人
・悲しいときなぐさめてくれる人
・助け合える人
・たまにケンカする人
・気持ちを考えてあげられる人

この結果から，授業者が積み重ねを意識しているか否かで，授業中に既習事項を想起する児童の割合は５０ポイント近く差が出ることがわかった。また，積み重ねを意識して授業を行うことで，道徳的価値を深く理解している児童の割合が多くなる傾向が見られた。

（３）１年生と３年生の比較調査より

前記した項目以外に，２学年共通の項目で児童の意識を調査し，その比較を行った。

１　道徳の時間はすきですか。

	１　年	３年意識的指導群	３年無意識的指導群
すき	８１．９％	６０．０％	６６．７％
どちらかというとすき	１３．６％	４０．０％	２８．６％
〃　　きらい	４．５％	０％	４．７％
きらい	０％	０％	０％

２　道徳の時間は，大切だとおもいますか。

	１年	３年意識的指導群	３年無意識的指導群
とても大切	７７．３％	６０．０％	８１．０％
どちらかというと大切	１８．２％	４０．０％	１９．０％
〃　　大切でない	４．５％	０％	０％
大切ではない	０％	０％	０％

３　道徳の時間に考えたことが，ふだんの生活で役に立ったと感じたことがありますか。

	１年	３年意識的指導群	３年無意識的指導群
ある	６８．２％	９０．０％	８１．０％

この結果から，道徳の時間が好き，あるいはどちらかというとすきと答えた児童は，積み重ねの意識の有無にかかわらず，着実に道徳の時間を実施することによって，高止まりの傾向が見られた。その理由についても記述式で調査したが，１年生の児童が「お話が楽しいから」「自分の意見が言えるのがうれしいから」といった理由を挙げたのに対して，３年生児童は「自分に素直になれるから」「友達の知らなかった一面がわかるから」「自分の考えたことをみんなに話すのが楽しいから」といったことを挙げていた。

また,道徳の時間はとても大切であると考える児童の割合も,意識の有無にかかわらず,肯定的な捉え方をしている児童がとても高いという結果が得られた。こちらもその理由を記述式で調査すると，１年生が「大人になった時困るから」「国語や算数と結構違う勉強をするから」といった漠然とした理由を挙げたのに対して，３年生は「自分の生活に役立つから」「人の気持ちが分かるようになるから」「自分のことを色々と考えるから」といった日常生活での実感をともなった意見に変容している様子がうかがえた。

これは，道徳の時間が普段の生活に役立っていると感じている児童の割合からもうかがえ，着実な道徳の時間の実施によって，役立つと感じる児童の割合は高くなる結果が得られた。また，積み重ねを意識することによって割合はさらに高くなることがわかった。

Ⅳ　おわりに　－成果と課題－

ここまでの研究と検証より，次のような成果が得られた。

①道徳の時間において積み重ねを意識して授業を行うことで，児童は授業中にこれまでの道徳の時間を想起し，ねらいとする価値についてより深く考えることができる。その結果，児童の価値に対する理解をより深めることができる。

②積み重ねという意識の有無にかかわらず，着実に道徳の時間を実施していくことにより，道徳が好き，あるいは大切であると考える児童が，学年が上がるに従って減少するという一般的傾向に，歯止めをかけることができる。

③道徳の時間の着実な実施は，道徳の時間の学習が普段の生活に役立つと感じる児童の増加につながるが，積み重ねを意識しながらの実施によってさらに増加させることができる。

これらから，道徳の時間において積み重ねを意識し，同じ内容項目を繰り返し指導していくことは，児童の道徳的価値への気付きや自己への自覚をより深めるために有効であることがわかった。また，その土台として道徳の時間の着実な実施が重要であることも確認できた。

これからの課題としては，まず先にも述べた通り，本研究において実際に効果を検証するためにはまだまだ時間を要する。今後も自校や自学級で検証を続け，より効率的・効果的な方法を探りながら，積み重ねを意識した道徳の時間を実施し続けていく必要がある。また，道徳の時間を要として機能させるためには，他の教育活動との関連をより密にし，日常の生活においても，道徳の時間で深めた道徳的価値に対する見方や考え方を生かしていけるようにしなければならない。そのためには，道徳の時間を核とした総合単元的な学習プログラムも開発していきたい。

今後も，道徳の時間１時間１時間が児童の心に刻まれていき，それが力の源となって，周りと共によりよく生きていこうとする力をもった子どもを育成していけるよう，研修を深めていきたいと考えている。

内容項目別　ねらいと資料　一覧

	礼儀		思いやり・親切		友情・信頼、助け合い		寛容・謙虚		尊敬・感謝	
１年	気持ちのよいあいさつや言葉遣いを心掛けようとする心情を育てる。	かめさんありがとう（学研）	身近な人たちに温かい心で接し、ともに気持ちよく生活していこうとする心情を育てる。	はしの上のおおかみ（学研）	相手の気持ちになって、友だちとわけへだてなく仲よくしていこうとする心情を育てる。	二わのことり（学研）			身近で世話になっている人々に気づき、感謝しようとする心情を育てる。	がっこうたんけんで（東京書籍）
	気持ちのよいあいさつや動作に心掛け、自分から人に明るく接しようとするようとする意欲を高める。	えがおであいさつ（彩の国の道徳）	身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てる。	ぼくの　はなさいたけど（東京書籍）	友だちの気持ちを考え、仲よく助け合っていこうとする意欲を高める。	くりのみ（学研）			日ごろ世話になっている人々に感謝しようとする態度を養う。	ありがとう、六年生（学研）
２年	日常生活におけるあいさつの大切さを知り、気持ちのよいあいさつを心がけようとする心情を育てる。	まほうのあいさつ（学研）	幼い人を思いやり、温かい心で優しく接しようとする心情を育てる。	さんぽ道（学研）	友達と仲よく助け合い、励まし合っていこうとする心情を育てる。	森のともだち（東京書籍）			自分を育ててくれる人々の愛情に気づき、感謝しようとする心情を育てる。	きつねとぶどう（学研）
	気持ちのよいあいさつや言葉遣いなどを心掛けて、明るく接する態度を養う。	たびにでて（文科省資料）	身近にいる幼い人や弱い立場の人の気持ちになって考え、親切にしようとする心情を育てる。	公園のおにごっこ（学研）	困っている友達の気持ちを考え、共に助け合おうとする態度を養う。	がんばって（彩の国の道徳）			日ごろ世話になっている人々に感謝の気持ちをもち、その気持ちを素直に言葉や態度に表そうとする意欲を高める。	学校のう園（彩の国の道徳）
			困っている人や弱い立場の人を思いやり、温かい心で接し、進んで親切にしようとする態度を養う。	ぐみの木と小とり（ぶんけい）						
３年	周りの人に不快を与えない礼儀の大切さを知り、礼儀正しく行動しようとする心情を育てる。	失礼おばさん（学研）	相手のことを思いやり、親切にしようとする心情を育てる。	拾ったりんご（ぶんけい）	友達をよく理解し、仲よく助け合い、励まし合っていこうとする心情を育てる。	貝がら（学研）			自分たちの生活を支えてくれる人々の努力に気付き、感謝しようとする心情を育てる。	かねつきどう（学研）
	礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接しようとする心情を育てる。	言葉のまほう（ぶんけい）	困っている人や苦しんでいる人のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。	一輪の花（彩の国の道徳）	相手の気持ちを考え、信頼し合って友情を深めようとする心情を育てる。	ないた赤おに（ぶんけい）			日ごろ世話になっている人々に尊敬と感謝の気持ちをもって接しようとする態度を養う。	おばあさんときれいな歩道（ぶんけい）
					友達どうし互いに理解し、信頼し助け合おうとする態度を養う。	たまちゃん、大すき（東京書籍）				
４年	だれに対しても礼儀正しく、真心で接しようとする意欲を高める。	春の星（学研）	相手の気持ちや立場を考えて、進んで親切にしようとする心情を育てる。	スーパーの店先で（心の絆）	互いを認め合い、理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。	わたしとさおりちゃん（学研）			私たちの生活を支えている人たちや、社会のために働いている人たちを尊敬し、感謝する心情を育てる。	あと三十分おくれたら（学研）
	礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接していこうとする態度を養う。	フィンガーボール（ぶんけい）	相手の立場を考え、黙って温かく見守ろうとする心情を育てる。	心と心のあく手（学研）	互いに信頼し合い、助け合い、忠告し合って、友情を深めていこうとする心情を育てる。	絵はがきと切手（ぶんけい）			自分たちの生活を支えるために一生懸命働いている人々に対する理解を深め、尊敬と感謝の気持ちをもって接する態度を養	わたしのお父さん（彩の国の道徳）
			相手の気持ちを尊重して行動することの大切さに気づき、温かい人間関係をつくっていこうとする態度を養う。	温かい言葉（学研）	友だちのことを考え、互いに理解し、信頼し、助け合いながら、友情を深めていこうとする態度を養う。	わたしとのぞみ（彩の国の道徳）				
５年	時と場をわきまえて、礼儀正しい生活をしようとする態度を養う。	待合室で出会った少女（ぶんけい）	だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って温かく接していこうとする意欲を高める。	思いもよらぬできごと（学研）	男女が互いに理解し、信頼し合い、向上していくことのできる友情関係をもとうとする態度を養う。	言葉のおくりもの（学研）	広い心で自分と異なる立場の人も受け入れようとする心情を育てる。	銀のろうそく立て（学研）	自分たちの生活が様々な人々の助けや支えによって成り立っていることに気付き、それに応えようとする意欲を高める。	ありがとう（彩の国の道徳）
			困っている人を見たときは、その人の身になって考え、親切にしようとする態度を養う。	くずれ落ちたダンボール箱（東京書籍）			自分のことばかりでなく、相手の立場や気持ちも受け入れ、広い心で人に接しようとする意欲を高める。	すれちがい（学研）		
６年	時と場合をわきまえて、相手の立場に立ち、心を込めた接し方をしようとする態度を養う。	江戸しぐさ（東京書籍）	相手の立場に立って思いやりの心を持ち、親切にしようとする態度を養う。	心に通じた「どうぞ」のひとこと（東京書籍）	友達のことを真剣に考え、友情を深めていこうとする心情を育てる。	ロレンゾの友だち（文部省資料）	相手の立場や気持ちを考え、広い心で人の過ちを許そうとする心情を育てる。	ひとふさのぶどう（学研）	わたしたちの生活が、互いの助け合いや協力によって成り立っていることを理解し、感謝し合って生きていこうとする態度	土石流の中で救われた命（東京書籍）
					友だちと互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする態度を養う。	幸せコアラ（文科省資料）	謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を養う。	やっぱり気になる（ぶんけい）		

補助資料２　内容項目別指導計画　２－（２）思いやり・親切

思いやり・親切

ともによりよく→相手のことを考えて→気持ちになって（立場に立って）→色々な表し方で

まずは温かい心で相手に接するというこの価値の最低限の理解を図る。その上で、思いやりをもって親切にしようという実践意欲や態度を育てるとともに、相手の立場や気持ちにも様々あり、何かをすることだけではなく、黙って見守ることや敢えて何もしないことも思いやりや親切になる場合もあることを理解し、価値理解を深める。最終的には、それら全てを考えて、今どうすることが相手への思いやりや親切につながるかを考えられる判断力や実行に移そうとする意欲や態度を養っていく。

学年	主題名・資料名	ねらい	積み重ねの工夫
１年	あたたかい心で はしの　上の　おおかみ	身近な人たちに温かい心で接し、ともに気持ちよく生活していこうとする心情を育てる。	クマの親切な行動と思いやりの心に触れ、誰にでも優しい心で接したいという気持ちになるおおかみの心情の変化に共感させ、身近な人に温かい心で接していきたいというという思いに結びつける。
	相手のことを考えて ぼくのはな　さいたけど	身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てる。	みんなのプレゼントを見て悲しんでいるトトの気持ちを考えさせると同時に、お母さんがわけを知って喜んでくれたことを押さえ、親切にしてよかった（親切にすることが大切である）という思いにつなげる。
２年	弟を思いやって さんぽ道	幼い人を思いやり、温かい心で優しく接しようとする心情を育てる。	自分のいちばん身近にいる弟に対する思いやりを考えることで、身近にいる幼い人にやさしく接してあげたいという思いを膨らませる。
	相手の本当の気持ち 公園のおにごっこ	身近にいる幼い人や弱い立場の人の気持ちになって考え、親切にしようとする心情を育てる。	ゆうたのことを思って鬼にしなかったのに、ゆうたがジャングルジムの方に行ってしまった時のしんじたちを考えさせることで、相手の本当の気持ちを考えなければ本当の思いやりではないという思いにつなげる。
	困っている人のために ぐみの木と小鳥	困っている人や弱い立場の人を思いやり、温かい心で接し、進んで親切にしようとする態度を養う。	病気のりすの所へ、迷いながらもお見舞いに行ったところでのりすと小鳥の会話を役割演技で考えさせ、親切な行いをした後のすがすがしさが、その後の親切にしようとする態度につながるようにする。
３年	さりげない親切 ひろったりんご	相手のことを思いやり、親切にしようとする心情を育てる。	新聞の記事を読み返した時のぼくの気持ちを考えることを通して、何気なくしたことでもその時の相手の気持ちを考えた行為は親切につながることに気づき、おせっかいでなく親切にしたいという思いにつなげる。
	本当の優しさとは 一輪の花	困っている人や苦しんでいる人のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。	母の言葉が頭から離れないでいる栄一の心の内を考えることで、困っている人や苦しんでいる人にこそ自分から進んで親切にしたいという思いを強く持てるようにする。
４年	困っている人の身になって スーパーの店先で	相手の気持ちや立場を考えて、進んで親切にしようとする心情を育てる。	公平性を考える店員の立場と、被災地に少しでも多くの水を届けたい男の人の立場とを思って葛藤するぼくを考えながら、困っているだれかを思いやる優しい気持ちが自分の中にもあることを確かめさせる。
	相手を大切に考えて 心と心のあく手	相手の立場を考え、黙って温かく見守ろうとする心情を育てる。	おばあさんに手を貸そうとして断られてしまったぼくが、それでも心配でじっと見守る様子を通して、相手の喜びが自分の喜びにつながることを再認識し、真に相手を思いやりたいという思いにつなげる。
	相手の気持ちを尊重して 温かい言葉	相手の気持ちを尊重して行動することの大切さに気づき、温かい人間関係をつくっていこうとする態度を養う。	お兄さんと男の子の会話を聞いてぼくがどんなことを考えたかを想像させることから、自分と同じくらい相手を大切にしようとする自己表現の仕方を考え、温かい人間関係を築いていこうとする態度につなげる。
５年	温かい心にふれて 思いもよらぬできごと	だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って温かく接していこうとする意欲を高める。	ただ自分の都合だけでとった行為に対して、思いがけず丁寧にお礼を言われ、泣き出したわたしの心の内を考えることを通して、相手を思い、相手のために行動していきたいという意欲を高められるようにする。
	いやな思いをしても くずれ落ちたダンボール箱	困っている人を見たときは、その人の身になって考え、親切にしようとする態度を養う。	店員に叱られた時のわたしの多様な気持ちを引き出すことから、たとえ人に認められなくても、困っている人の立場や気持ちを考え、親切にしていこうとする態度につなげる。
６年	親切の温かさ 心に通じた「どうぞ」のひとこと	相手の立場に立って思いやりの心を持ち、親切にしようとする態度を養う。	「ありがとう。すわらせてもらいましたよ」と言われたときの心の温かさを考えることを通して、親切な行為から心の交流が生まれる素晴らしさに共感させ、親切にしていこうという態度に結びつける。

補助資料３　１時間ごとの指導例　３年２－（３）

第３学年　道徳学習指導例

１　主題名　　互いに理解し合って　　内容項目　２－（３）
２　資料名　　「たまちゃん、大すき」
　　出典　『明るい心で　どうとく３年　埼玉県版』（東京書籍）
３　主題設定の理由　　－略－
４　ねらい　　友達どうし互いに理解し、信頼し助け合おうとする態度を養う。
５　学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される児童の思い	○指導上の留意点　☆評価	資料
導入 ４分	１　友達についての２択クイズに答える。 ・これから出すような２人は、友達でしょうか、友達ではないでしょうか。	・（あいさつもしない）友達じゃない。 ・（困っている時に助け合う）友達だと思う。 ・（ケンカをする）友達だと思うけど、あまりケンカしすぎるのは…。	○クイズを楽しみながら学級の雰囲気をほぐすとともに、ねらいとする価値についての課題意識へつなげる。	クイズの書かれた画用紙
展 開 39 分	２　資料「たまちゃん、大すき」を聞き、話し合う。	積み重ねのポイント	○映像も用いて資料の提示を行うことで、資料理解を深められるようにする。	副読本 映像
	①タイムカプセルを土手に投げたとき、まる子はどんな気持ちだったでしょう。	・たまちゃんのうそつき。 ・約束したのに連絡もしないで来ないなんて、許せない。 ・楽しみだったのにひどい。 ・信じていたたまちゃんに裏切られて悲しい。	○友達と仲たがいしたときの気持ちを思い起こさせながら、友達に裏切られて怒りが消えないまる子の心情を共感的に理解できるようにする。	場面絵
	②お鍋の火を見ているとき「はっ」としたまる子は、どんなことに気づいたのでしょう。	・たまちゃんも今の私のように、お母さんに頼まれて来られなかったんだ。 ・たまちゃんは約束を破りたくて破ったわけじゃないんだ。 ・今の私と同じ気持ちだったのに、ひどいことを言っちゃった。 ・どうして、許してあげられなかったんだろう。	○自分も同じ立場に立つことで、たまちゃんの事情や気持ちを理解できたことに気づけるようにする。 ○タイムカプセルを投げたときの一方的な考えと、たまちゃんの立場に立って気づいたときとを比較しながら、心の変化を捉えられるようにする。 ☆たまちゃんの立場に立って自分をふり返るまる子を通し、相手の立場に立って考えることが大切だという思いが持てたか。（発言・表情）	場面絵
	③どんなことを考えて「たまちゃん…ごめんね。」と言ったのでしょう。	・たまちゃんのことわかってあげられなくてごめんね。 ・せっかく二人で作ったタイムカプセルをなくしてしまってごめんね。	○相手への無理解への謝罪の念だけでなく、一方的に友情の証であるタイムカプセルを捨てたことへの自責の念など、多様な考えを引き出せるようにする。	場面絵

		・自分のことしか考えていなくてごめんね。 積み重ねのポイント	○その後、「大好き」と書いた手紙にも触れ、なぜ友情が深まったのかも考えられるようにする。	
展開 39分	4　今日の学習をふまえ、ねらいとする価値について考える。 ・友達ともっと仲良くなるためには、どんなことが大切だと思いますか。	・ケンカしても、相手のことをよく考えて、自分の悪かったところを素直に謝ること。 ・友達のことをよく考えて、わかってあげること。 ・友達の話をよく聞くこと。 ・相手の気持ちになって行動すること。	○仲たがいから仲なおりした経験も思い起こしながら、友達同士、互いに理解し合うことによって、信頼関係が深まることを感じられるようにする。 ☆友達どうし互いに理解し、信頼し、助け合いながら生活していこうとする思いが高まったか。 （発言・うなずき・表情）	ワークシート
終末 2分	5　ねらいに関連した教師の説話（相手のことを理解し合う、友情のよさを感じられる体験談）を聞く。		○児童の心に響かせ、余韻を残して終わるようにする。	